

ちちんぷいぷい

埼玉県 長光寺住職 福島伸悦

「ちちんぷいぷい 痛い痛い飛んでけー」という言葉を使ったこと、あるいは聞いたことがある方は多いと思います。一般には、子供が転んでひざを痛めたり、頭をぶついたりしたときに、その部分を手で押さえて唱えるものです。私自身も子供のころ、母親から言われ、なんだかわからないうちに痛かったところが治ったような気になり、泣き止んだ記憶があります。このように「お呪（まじな）い」のことばとして、代々受け継がれてきたものです。

呪文（じゅもん）は、多くの人にとって日常のことばから外れた、訳のわからない言葉のようです。宗教的な儀式を行う厄除けや地鎮祭を行うお祓いの偈文など唱えるお経も呪文です。曹洞宗ではご祈祷の際、般若心経を読誦します。これを唱えることによって幸運、幸福を招いたり、災禍を防ぐことができると考えられているからです。『ギャーティ・ギャーティ・ハラギャーティ・ハラソーギャーティ・ポーズソワカ』この部分が呪文です。

理屈抜きに唱えることによって、願いを聞き入れてくれるというのです。ことばを発することによって一定の行為を成就させようとする目的があります。現世利益のようですが、私はこれを、ただのお呪いとしてではなく、いつも煩惱によって右往左往している自分自身に気づく誓願として考えた方がいいのではと考えています。

仏様の誓願は、自分さえよければというものではありません。常に「他とともに」という衆生救済の強い願いの裏付けの中で、大いなるいのちに生かされていることに気づくことです。そして、際限のない自分の煩惱を見つめ続けることが求められるのです。そうすると、幸せは向こうからやってきてくれるものです。